

宇和島地区在宅緩和ケア推進モデル事業について

口羽外科胃腸科医院（津島町高田）

口羽 正知

【緩和ケアの定義】生命を脅かす疾患（がん末期など）にかかっている患者さん、その家族が抱えている身体的（痛み、呼吸困難など）・精神的・社会的（仕事、家族の心配など）苦痛といった問題を適切に評価し対応することによって、患者さんと家族の生活の質を改善する取り組みを指します。

国により2007年、がん対策基本法が施行され、県においてもがん対策推進計画が2008年からスタートしました。その中において、患者さんとその家族が、苦痛なく安心して住み慣れた我が家で過ごしたいという思いを叶えるということと、緩和ケアの支援体制の仕組み作りのため、在宅緩和ケア推進モデル事業は誕生しました。

自宅での療養を希望するがん患者さんがいる場合、入院先の地域連携室と、患者さんが住んでいる地域の在宅主治医、訪問看護ステーション、調剤薬局、ケアマネージャー、介護サービス事業所といった地域資源との間を「コーディネート」と呼ばれるスタッフが、橋渡しをします。

ここから退院に向けて、病院スタッフと在宅スタッフが調整をさめ細かく行います。退院後は、在宅診療がスタート。訪問診療、訪問看護、訪問薬剤指導、介護サービスが行われ、患者さんと家族を24時間サポートします。急な入院が必要な際には、入院先「バックベッド」を退院前に決めておき連携します。在宅・病院での看取りに関わらず、生活を支える視点で看る取り組みを行なっています。

医師、看護師、ケアマネー

ジャー、薬剤師、介護関連のスタッフ、行政のスタッフ、これらを総称して「多職種」と言います。こうした貴重な在宅診療での経験をもとに、宇和島地区では毎月、多職種のスタッフが集まり、症例検討会を開催しています。苦痛緩和のための症状コントロールではなく、がん患者さんとその家族の生活を支える視点で看ることができているか情報共有し、より質の高い緩和ケアの実践を目指しています。

宇和島地区在宅緩和ケア推進モデル事業は、在宅での緩和ケアを提供するだけでなく、それを提供するためのシステムの構築、多職種の連携、人材育成の場でもあります。現在の私たちの活動が、これからの宇和島地区の地域包括ケアシステムの役に立てればと思っています。

余暇のひととき

さらさらと調べの如きせせらぎのかたえに合
飲のほのぼのと咲く 金谷 幸夫
水の出る報せ聞くなり嬉しくて蛇口を開けて
ひたすらに待つ 善家キクエ
大水をすっぱり被りし稲なるに色づき初めて
収穫待たるる 善家 聖子
通水のありても節水身につきて蛇口をしぼり
洗ひものする 高山 幸子

葉月会

菖虫の糸一本の自適かな 村重瑠璃子
秋の夜や丸めし紙の解くる音 佐藤 節子
煌煌と星なめつくし後の月 三浦 信子
鈴なりの隣の柿や空真青 竹内 ひさ
ティータム挽ぎたてレモン香り立つ 池田 篤子
神仏に還りぬく玉の青蜜柑 中里ひな子
リサイタル胸元に差す秋扇 若松 敬子
果てし無き深き広さや霧の海 三原 美加

まゆみ句会

遁避して熟柿すすりてをりにけり 秋田 泰造
おんぶばつた跳ぶとぶ明日見ゆるまで 梶原 征子
白い靴履き志高くもつ 鴨田レイ子
虫しげき夜やミステリー膝に伏せ 楠本 昭美
無為にして楽し夜長の長話 大上 初美
里の夜の神楽と人と酒に酔ふ 高田 千恵
なみなみと月の奔流堰を越ゆ 福島 厚子
ほのほのと柿の柿いろ人の恩 山根 築子

かなな句会

色鳥のこゑを残して還らざる 片桐八重子
山氣こもりて鬼胡桃ずつしりと 川崎 敬子
人赦す紐鶏頭の垂れ下り 木熊 公子
焼栗のはぜて香し芝不器男 酒井 佳子
菖虫をつついて妣を恋しがる 永田 三圃